

YMCA Camp Stories vol. 18



気づいたら...！！
～キャンプとの出会い～

武田 悠

Haruka Takeda

盛岡YMCAスタッフ

▼とにかく笑って、とにかく楽しかった・・・

正直、あまり覚えていません。初めて行ったのが何のキャンプだったのか、新しい友達とどんなことを話していたのか、自分は緊張していたのか、具体的には覚えていません。

ただ、とにかく笑って、とにかく楽しかったことは覚えています。気づけば中学3年生までYMCAのキャンプにハマっている自分がいました。毎年1か月前から、キャンプで何をしようか、何をもらおうか、どんな子と同じグループなのか、さらには、電話予約がちゃんとされているのか母に確認。子どもながらに心配もしていました。そのくらい待ち遠しかったのです。

なぜ、そこまでYMCAのキャンプが好きだったのか。今思えば、友達、リーダーに会えることが楽しみで、しかたがなかったように思います。グループの子どもたち、リーダーと仲良くなりた、一緒に遊びたい。新しい出会いが私にとって、とても刺激的だったのだと思います。

また、トラックの荷台に乗り、宿泊するところまで行ったり、島全体を使ってウォークラリーをしたり、毛布でリーダーを埋めて遊んだり、相撲をしてリーダーに海に投げ飛ばされたり…。学校や家には味わうことのできない体験も大好きな要因でした。

▼ キャンプは、知らない自分に気づける場

「大学生になったらリーダーになって戻ってくるから。」そんなことを言いながら、戻ってきたのは仙台ではなく、盛岡のYMCAでした。1年生の夏、とくにすることもなく、日々の生活に退屈し始めたころ、「そういえば、盛岡にもYMCAがあるのではないかと、ネットで調べたことがきっかけでした。それも、事務所が案外近くにあることを知り、駆け付けました。

そこから私は4年半、盛岡YMCAで育ちました。キャンプはもちろん、サッカー、水泳、野外活動、リーダー会、様々な活動で子どもたち、リーダー、スタッフが私を成長させてくれました。

正直、リーダーは、こんなにもハードだったのかと何度も辞めようとしたこともあります。キャンプ前、何時間も全員が納得するまで話し合いをしたり、自分の想いや意見をどう伝えたらいいのか悩んだり、喧嘩をしたり…。自分の弱さと嫌でも向き合わなければならない時間がたくさんありました。子どもたちに向けても同じです。どうしたら惹きつけられるのか、どうしたら想いが伝わるのか、喧嘩だってしたこともあります。

しかし、そんな時間がたくさんあったからこそ、心の底から楽しい時間を子どもたち、リーダー、スタッフみんなで作り出すことができた瞬間がたくさんあったのではないかと思います。メンバーの時には知り得なかったリーダー、スタッフの想いや願い、努力を知ることができました。キャンプは私にとって、知らない自分に気づける場でもありました。



▼ キャンプは、新しい発見の場であり、人と人がつながれる場所・・・

それから現在、盛岡YMCAでスタッフとしてキャンプに参加させていただいております。今になって、とてもキャンプの力を強く感じています。キャンプでチャレンジする子どもたち、リーダーの姿は、本当にたくましく、キャンプ後は特に様々な変化を感じます。親から離れ、知らない誰かと生活を共にする。気づけば、その誰かが、友達、仲間になっている。すごいことだと思います。ここには、親の自立、子どもの自立、そしてひとつの社会作りが繰り広げられているんだと実感しています。

メンバーで経験したこと、リーダーで経験したこと、スタッフで今、経験していることに共通して言えることは、キャンプは、新しい発見の場であり、人と人がつながれる。それがキャンプだと思います。大事なものは、つながるまでのプロセスで、喧嘩をしたり、相談したり、何かに取り組んだり、協力したり、名前を覚えたり…。そうしたいくつもの経験を経て気づいたらつながっていたこと。

そうしたきっかけの種を蒔いていけるよう、これからもキャンプをみんなで必死に作っていきたいと思っています。



日本YMCA大会キャンプファイヤーより



Profile

1992年 宮城県仙台市生まれ。
2017年 岩手大学卒業。
小中学生時代は、仙台YMCAのキャンプに参加
学生時代 4年半は、ボランティアリーダーとして、キャンプ、
定例野外活動、サッカー教室、水泳教室、国際協力などの様々な活動に参加。
リーダー名（ニックネーム）は、ゴリナ

【取材：盛岡YMCA 総主事 濱塚有史】